

青木ヶ原樹海散策 ① 溶岩洞穴の巻

2023年10月05日(木)

10月4日。LMC 永世隊長 樋口昭さんの、米寿と写真集「富士山 88 景」出版の祝賀・記念登山で精進湖パノラマ台に樋口さんとともに登りました。

下山後、河口湖畔のホテル湖龍で、祝賀の宴が和やかに盛大に開かれたのでした。

翌5日。青木ヶ原樹海を歩きましょう、と提案し歩いてきました。樋口さんは参加されませんでした、鳴沢氷穴入口まで車で送っていただきました。



鳴沢氷穴へ着いた。コインロッカーにザックを預けて入場。



少し歩いて、洞穴入口に達した。内部は摂氏零度と表示がある。



氷穴内は天井が高いところもあるが、低いところはこんな姿勢で進む。もっと低くて這わなければ通り抜られない場所もあった。



鳴沢氷穴を出て、歩いて富岳風穴へ向かう。約15分で富岳風穴に着く。氷穴と風穴の共通入場券600円だった。富岳風穴にはザックを背負ったまま入洞する。



富岳風穴内内部も氷穴内と同じ感じ。何回かシャッターを押したが暗くて上手く撮れていなかった。



富岳風穴内部。こんな広い場所がある。



富岳風穴前のバス停でバスに乗り、コウモリ穴に来た。ザックを無料で預かった上、ヘルメットも貸してくれた。樹海の中を洞穴に向かう。



コウモリは出入りできるが他の動物が入り込めないように、目の大きい柵で囲われた入口。細く狭い階段を下りて入洞する。洞窟探検の気分だ。



梶

これより奥はコウモリが棲息しているので入ってはいけない場所。扉があって彼らは出入りできるが、人間は通り抜けることができない。



コウモリ穴の中で記念写真を撮った。足元のくっきり刻まれた襷が、千年以上も前に噴出した溶岩が流れた時のままなのだと思います、興味深く眺めた。これまでに想像もできないくらい大勢の人に踏まれているのだろうが、少しも擦り減っているようには見えない。模様としても面白いと思った。ここコウモリ穴ではヘルメットを貸してくれたが、氷穴も風穴もヘルメットは必需品だと思う。何度も天井に頭をぶっつけた。

(樹海の巻につづく)

青木ヶ原樹海散策 ② 樹海の巻

2023年10月05日(木)



コウモリ穴から這い出て、西湖ネイチャーセンターに戻ってきた。
富岳風穴には、観光客や小学生の団体がたくさん入洞していたが、ここは静かだ、ネイチャーセンターの女性に、遊歩道の入口や道順について教えてもらって、樹海の中に一歩を踏み出す。



樹海の中は木々が重なるように茂っていて、見通しが悪い。空も木間越しにちらちらと見える程度で薄暗い。しかし、遊歩道は広く、ウッドチップが敷かれた場所、溶岩そのままの部分があったりして、変化もある歩きやすい道だった。
青木ヶ原樹海と聞くと、変な先入観があって一時不気味な雰囲気も感じたが、地面は苔がしっとり青々として起伏も大きくなく、散歩道として気持ちよい。



案内図にあった「野鳥の水飲み場」に着いた。ここは十字路状になっている。まっすぐ行けば「湖野鳥の森公園」へ、左へ行けば富岳風穴や竜宮洞穴へ。
ここは右折(写真では左へ)して西湖畔に向かってなだらかに下って行く。

バスが通る道路に出た。左手に西湖に下る遊歩道の入口がある。ここにいた数分間、バスも車も1台も通らない静かな道だ。

遊歩道には案内板が要所要所にあり、道から外れない限り、まず迷うことはない。しかし、道を外れたらとても歩き難いと思う。



西湖の根場(ねんば)浜から見た風景。ここから右方向には富士山が聳えているのだが、頂上を雲が覆っていてきれいには見えない。
その景色が左端にある写真で、根場民宿というバス停でバスを待つ間に写したものだ。

根場浜で昼食にしかたつたのが見つめることができず、結局、バスで河口湖駅まで戻り、駅前のレストランで生ビールとほうとうを食べ、打ち上げ、解散した。



前日は霧雨模様だったがこの日は晴れて、富士山今年の初冠雪を見ることができて幸運だった。



駅前のレストランのガラス越しに見た河口湖駅と富士山。電線が邪魔だったので消したが、画像が荒れてしまった。

参加メンバー

川村吾一・成田 修・阪西 保
大嶋 實・山川昭夫・梶山 實
廣井 均・勝沼正敬(以上8名)
星 富夫(急遽不参加)
(申し込み順)

写真は、梶山さん、阪西さん、廣井さんから提供していただいた。

(おわり 勝沼)